

語釈：インターネット Twitter 上でみる Trump 米大統領の英語 (70) (A Basic Way of Reading Trump-Language)

後 藤 寛

本連載ではすでに見た事項も確認の意味で取り上げてもある。知識の定着化である。主題での「語釈」の趣旨の1つは英語という言語を何かと上から眺める(panoptically)ことになる Basic の方法さえ心得ていれば語彙の 850+ Basic Words 以外はたとえすべて未知でも「類推」(analogy)により、ほぼどんな英文も理解できるはずだろうという考え方とその立証である。Go back to square one. 「振り出し・原点に帰れ」である。ただし Basic 修得には年季がいるところが盲点であるし、また段階式[Graded (G) / Semantically Sequenced (SS)]法での Basic 実践には Basic そのものに相当熟練している必要がありこれも盲点となっている。そもそも EP 本の表面的でない真の実践となると *The Meaning of Meaning* 等々、Ogden や Richards による文献の deep reading (深読み) が前提となり、それが如何に EP 本に projection (射影・投影・写像化) されているかの見定めでポイントである。ただこれも難解で実際には一般に把握されにくいのも現実だろう。深淵な言語哲学思想を如何に意味解釈するか？その解釈考の問題となる。

今回は前回でも扱ったカリブ海に発生し米国南東部に大きな被害をもたらした hurricane の「進路予測」で、移動事象の問題と関わる。なお、hurricane, hurry は同系語であることは前々回(68)で言った。

Trump 氏は頻繁に大文字で語強勢する。ドイツ語では読みやすさからすべての「名詞」の語頭が大文字化されるが、実は歴史的にはドイツ語と同じゲルマン系の英語も近世の時代(17~18世紀)には強音系の語の名詞は大文字化されたわけで、その点では Trump 氏の英語の正字法(orthography)は慣れれば読みやすさ・高速読みにつながることにものなる。今後、英語もドイツ語のように名詞の語頭はすべて大文字化とするか？さらなる高速読みが可能となり、外国語としての英語力が増すか？今回も stopwatch を片手に母語話者が読む秒数を勘案し流れに乗った超高速読み(super-rapid silent reading : SRSR)でいきたい。

(1) This was the originally projected path of the Hurricane in its early stages. As you can see, almost all models predicted it to go through Florida also hitting Georgia and Alabama. I accept the False News apologies ! (September 4, 2019)

(2) In the early days of the hurricane, when it was predicted that Dorian would go through Miami or West Palm Beach, even before it reached the Bahamas, certain models strongly suggested that Alabama & Georgia would be hit as it made its way through Florida & to the Gulf. Instead it turned North and went up the coast, where it continues now. In the one model through Florida, the Great State of Alabama would have been hit or grazed. In the path it took, no. Read my FULL FEMA statement. What I said was accurate. All Fake News in order to demean ! (September 5, 2019)

▲(1)、(2)は文脈上での coherence (意味的結束性) から今回、並行させて提示した。文の流れで前後2語ずつの共起・結合(linkage)が英語文の pattern としてすんなり素早く認知できるか？であるが、ここでは背景的な事の流れを踏まえている必要もある。実はこの時に起きた大ハリケーン・ドリアン(ドリアン)の進路予測に関し、Trump 氏が公にしたものが違っていた(?)とメディアからクレームがついたのである。メディアは特にアラバマ州を襲うという大統領の警告が違ったとし問題にした。それに彼は反駁し最初から正しかったと主張している内容であるが、元々は人災ではなく天災のこと。

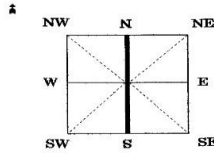
(1)の文頭の This は当初の Hurricane Dorian の進路予測図のことで、Trump 氏はその図もネット上に添付した。「当初はどの進路パターンも Florida 州経由で Georgia 州と Alabama 州を直撃することを示している」と大統領としての警告が間違っていないと言いつつ、メディア側に謝罪を求めている。

(2)は「当初の予測進路はバハマ諸島上陸前に Miami または West Palm Beach 経由というもので、いくつかのパターンが Florida 経由でメキシコ湾へ向くなかで Alabama と Georgia は直撃となるというものであったが北へ進路を変え、沿岸(coast)を北上中である。Florida 経由の予想パターンでは Alabama は直撃か、かすめるはずであったが結果的にはそうはならなかっただけだ。私の出した FEMA [fɪˈmæ] (Federal Emergency Management Agency : 連邦緊急事態管理局) による文書を読んで欲しい。私の予測は正確だった。メディアが私を陥れようとしているのだ！」という内容である。

Florida 州 Palm Beach は Trump 氏の豪華な邸宅のあるところである。palm は「ヤシの木(その葉)」と「手のひら」の意味があるが、形からである。人体の部位として手(hands)は何かと意味をもつ。

移動事象(motion event)での重要な経路描写で(1)での to go through ..., hitting ..., (2)での would go through ... / reached ... / made its way through ... / turned ... / went up ... などがこの場合の経路の言い方で、through (または past) が思考上の核となる語である。本連載 (53)と前々回(68)の(2)で触れた coast と shore の視点の違いに関わることで、coast は海岸ではなくすでに陸地に視点があると考えればよい。

Basic 語 **seaside** と、coast, *shore*, beach (*shore* はプラス α Basic 語) の 4 語の関係を改めてここで set theory (集合論) 風に示せば **seaside** $\supset$ coast $\cup$ *shore* $\supset$ beach となる。Path (経路) [through / past]があればその Source (起点) [from]と Goal (着点) [to]がある。移動事象描写では複合的に空間詞が重層をなす multiple spatial constructions (複合空間構文) や way-constructions (way 構文) を見ることとなる。



^^

英語：North, South, East and West 「北南東西」 cf. 日本語：「東西南北」

〔例〕英語：Southeast Asia (日本語：東南アジア)、日本語：東北地方

なお、ここでのハリケーン被害の「因果関係」(cause-effect)は The blow of the wind was the cause of the damage. ということになる〔cf. EP 本 II, p.88: The blow of the stick was the cause of the motion.〕。

ハリケーンなどの進行方向に関して 1 つ触れておくが、方位 (direction) の見方は日英語で若干の違いがある。日本語の「東西南北」は英語では「北南東西」(north, south, east and west)となる。たとえば ASEAN (東南アジア諸国連合) は Association of Southeast Asian Nations の略で、日本語の「東南」は英語では southeast 「南東」となる。英語での方位は「北南東西」が軸となっているからである〔EP 本なら II, p.24 での文例 North, South, East, West are four directions.、さらに pp.78-79 での文例参照〕。

この方位での基本となる日本語の「東西南北」ではない英語での「北南東西」(N, S, E, W) の四方位、八方位で (NE, NW, SE, SW) の見方はポイントで英語では縦軸の < N (北) $\Rightarrow$ S (南) > を基本に言う。

前回、特別に道具(instrument)に関し触れた。地図を A. Korzybski は A map is not the territory it represents. 「地図 $\neq$ 現地」と言ったが、地図もこの世で人間にとって重要な道具の 1 つである。身近な例で今日的な GPS (Global Positioning System) によるカーナビなどは刻々と You are here. がスクリーンの地図上に位置ベクトル表示され、終始<I am here.>を知覚・認知することとなる。本連載(61)で sense (意味)には「ベクトルの方位」の意味もあると言ったが、意味をどう理解するか？やはり Ogden-Richards の *The Meaning of Meaning* 等の内容理解とも絡む。poor sense of direction (方向音痴) というものがあるが、言語の意味理解でも方向音痴とならないしかるべき見定めをしたいものである。

(1)での下線部中の語 projected (写像化された) が後ろで視覚語 see ともつながる点には注目しておいてよい。ここでの太線語 path と models であるが、*path* はプラス α Basic 語で PIE etymon の「足」が root sense (原義) の /PED/ からと考えてよからう。pedal (ペダル)、pedestrian (歩行者) などの同系語が見えてこよう。さらに[p]が[f]となった Basic 語の **foot** がこの系統で同系語ということになる。このあたりはポイントで本連載(18)でも確認はした〔さらには拙著(2016)、松柏社、第二部、例(26)参照〕。

model 「モデル」は {mod (= measure: 尺度) + el (= 指小辞の small)} で、やはりカタカナ語にもなっている mode 「モード」は同系語である。なお、Basic 語 **measure** と **mind** は同系。

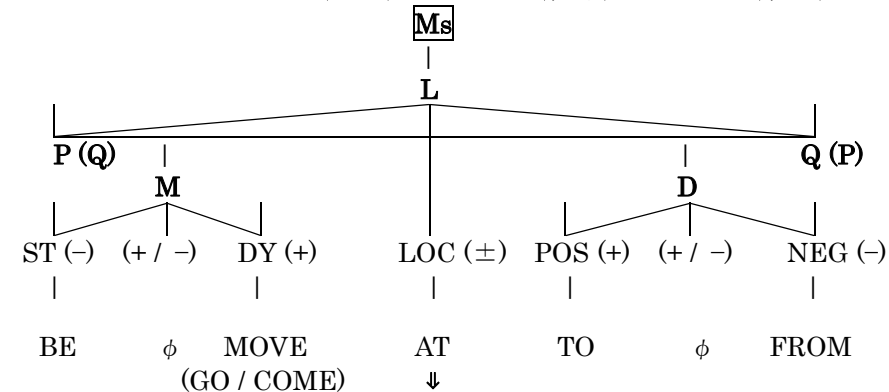
(2)での太線語 instead, grazed を見ておこう。instead の stead は元来が「場所、敷地」の意味である。instead of (～の代わりに) という熟語もあるが、Basic でならもちろん in place of である。homestead 「家屋敷、農場、宅地」という語も想起するとよい。

graze (かすめる) は Basic 語 **grass, green, growth** と同系で、元は「成長する草、その草を刈り取ること」であった。さらに今日は「家畜が草を食べる」意味でも用いるが、これはコツコツと行う草刈りや、動物が草をむしって食べる姿などをイメージ化すればよからう〔同上拙著、第二部、例(65)参照〕。

ところで、この場合の文中での un-Basic 語 grazed の代わりに (**b**)とし括弧に入る **b** で始まる 1 語の Basic 語は？ 本連載でたびたび触れているが、Basic の実践では全 Basic 語が心の中であふれ出る状態であることが必要条件となる。これが難しい。ここでは瞬間に brushed がひらめけば見事だろう。ただし grazed と brushed は同系語ではない。Basic 語 **brush** の原義は「サラッとかすめること」で、台風・ハリケーンなどの進路が「かすめる」意味でもよく用いる語である〔同上拙著、第三部、pp.187-189 参照〕。一方この元来が道具である brush (ブラシ) は「灌木、雑木林」の意味にもなる語で bush と似ている。bush のほうが初出年代は早いことを英語史は教えるが、両者に接点があるかどうかは学説的に目下不詳。

上でのハリケーンなど事物の方位・移動進路に関連するが、かつて筆者が米国の大学で学生として学んでいたとき Basic と絡めた論文で motion event (移動事象) [状態はゼロ (ϕ) 移動]に関する仮説的な Locus Grammar Model (軌跡文法モデル) を大胆に提案した。1 つの案 (scheme) としてのものであったが当時、指導を受けていた教授の研究室を feedback のため恐る恐る訪れたとき “Your paper is extremely good! It’s schematic.” と評され内心驚いた。本当に extremely good だったのか？と今なお

思ってもいるが point (点) と line (線) の概念を用い HERE / THERE の視点から Basic 言語 と絡めたもので、どうやら bad ではなかったらしい。冒頭での‘go back to square one’で文字通り原点を求め、要するに C. K. Ogden お墨付きの理論を背景にした珍しいものだったからだろう。その点ではいわゆる的外れではなかったのだろうと思っはいる。実はこれは EP 本 (旧版) も参考図書としたものであった [旧版の EP 本とは長い 90 頁の前書き付きの Washington Square Press 版であり、もうこれを所有している人は今日少なからう]。表題を The Deep Structure Scheme of Locus Grammar 「軌跡文法の深層構造スキーム」としたが、その基本的枠組みの一端を 上の tweet 文との関わり も含め簡略化し示しておく。重要な motion event での **Source (起点) → Path (経路) → Goal (着点)** の問題と関わる。



(ex.) <The wind is blowing northwest.> ⇒ The hurricane is making its way through Florida and to the Gulf, etc.

(Ms : motion situation L : Locus P : original point Q : terminal point M : motion D : direction ST : static DY : dynamic LOC : location POS : positive NEG : negative)

ここでは削ぎ落しで極限まで簡略化したものであるが、Basic 言語の見方を強く意識した仮説的な提示でモノ・コトのあり方を事象的に **motion situation (移動状況)** として 幾何学的に見るものである。referential (指示的) のみならず、たびたび触れている emotional (感情的) な心(mind)の持ち方としての mode (叙法) での subjunctive mode (叙想法) の世界も見定めてのものと考えている。感情も事象としては移動事象と見てよい。たとえば I was moved by that fiction story. (私はあの小説に感動した) などはその象徴的な文例と言えよう。なお、mode と Basic 語 **move, motion, mind** は同系。

indicative mode (叙実法) は現実の世界(in the real world)での事象である一方、subjunctive mode は現実の世界からの逸脱(away from the real world)であり、前者は deep lexeme (深層語彙素) としての AT、また後者は FROM/TO で象徴的に示される。AT/FROM/TO から見る現実・非現実の世界である。さらに deictic (直示的) には前者・後者はそれぞれ **THIS (HERE)** と **THAT (THERE)** ということになる。見方を変えれば事物の在りようとしての 変件事象(change event) である [EP 本なら II, pp.69-71 参照]。

前回触れた case (格) の観点からは locative case (位置格) に注目するものであるが、事象的移动での source (起点 : **FROM**) → path (経路 : **THROUGH/PAST**) → goal (着点 : **TO**) の幾何学的な抽象概念である 点(point) [Thing General] の描く軌跡としての 線(line) [Thing Pictured] の見方は mode ばかりではなく、tense や aspect にも適用されよう。lexicology (語彙論) 的な「点」と syntax/semantics (統語論 / 意味論) 的な「線」の結びつけでもある [前回の稿(69)も参照されたい]。時制では現在(present)は ATP、過去(past)は TO Q、未来(future)は FROM P/TO Q で、直示的にはそれぞれ **THIS (HERE)**, **THAT (THERE)**, **THAT (THERE)** ということになる [aspect での durative (継続相) は AT P、perfective (完了相) は TO Q、potential (可能相) は FROM P/TO Q]。本連載では(59)でも若干触れはしておいた。

たとえば Basic 文例 John is pushing / pulling the door (). で括弧の中に入る空間詞は？またその 本来の意味 は？ 正解は to で、自然な英語である。本来の意味は「ジョンはドアを (押して/引いて) 閉めよう としている」である。移動事象の **from → through/past → to** が関わっている。こういう場合の to は 副詞(adverb) であり、「本来の状態 (ドアであればその本来の目的の閉まっている **shut** 状態)へ (to its normal condition)」の意味である [cf. EP 本 I (p. 59), He is giving a push to the door.の場合]。

このあたりはその後の 1980 年代に R. Langacker が提唱した Space Grammar (空間文法) とともに基本的には一致するだろう。さらに今日的には generative semantics (生成意味論) で文を **Lexical Conceptual Structure : LCS (語彙概念構造)** から統語上への **projection (射影・投影・写像)** と見るとともに、「変件事象」を関数的 LCS 分析から原始意味述語(primitive semantic predicate)としての深層基本母型 [**lx ACT-ON** [ly CAUSE [BECOME [[ly BE-AT[ON/IN/WITH] [lz]]]]] の設定とも結びつく [本連載(13), (14), (35), (42), (57)参照]。一連の本連載稿も実は背景でここで示した趣旨内容を基本ベースにしているが、L. Talmy の優れた論文 “Semantics and Syntax of Motion.” (1975) が示唆する内容とも深く関わる。

(演習) 本連載 (66) ~ (70)より

本連載での各稿の有機的なつながりから論旨が十分読み取られていれば1)、2)の語の原義(root sense)に関する問いなど染み込んだ音感と語感から自然にスラスラ全正解できるはずである。仮に筆者が本連載内容を大学で扱っているとすれば、この種の客観的で小手調べ的な試験問題は8割以上の正解で「優」の成績となる学生は多かろう。正解が7割なら「良」、4割以下なら本試験を受ける以前に「不可」とし再履修とするだろう。成績評価は厳しくしないといけない。日本の大学の成績評価は甘い。再履修を経て何とか「可」で卒業後に学校機関に就職し、英語の学びを人に授けようとするのは心もとない。

3) は英⇒日の変換である。本連載(66)の末尾で触れておいたが、読み聴きした英文の意味内容を明確な日本語で伝える能力も日本人にとっては必要で重要なこと。これは上の(2)での tweet text 文例の内容を日本語に変換する例であるが、一定の字数制限の下で考えることは思考訓練になる。専門研究としては日英語対照研究 (contrastive studies of English and Japanese)であり、text 文の functional analysis (機能分析)の問題とも関わる。4) の問いは**本連載での Trump 大統領の tweet text 文例をすべて縮約 Basic 文に変換**することを考える上では単に語句の置き換えでよい場合の1例で、参考としておくとよい。

- 1) 次の①～⑮の語と同系の Basic 語は下の a)～o) のうちどれか (即座に正解したい)。

- | | | | | |
|--------------------|-----------------------|------------------|---------------------|------------------|
| ① schedule | ② trust | ③ privilege | ④ pattern | ⑤ sequence |
| ⑥ disport | ⑦ commercial | ⑧ opponent | ⑨ repeat | ⑩ grade |
| ⑪ anticipate | ⑫ prepare | ⑬ escort | ⑭ access | ⑮ graze |
| | * | * | * | |
| a) company | b) competition | c) degree | d) fertile | e) garden |
| f) grass | g) law | h) market | i) necessary | j) part |
| k) position | l) receipt | m) second | n) skirt | o) tree |

- 2) 次の①～⑪のそれぞれの語群で1つ同系でないものはどれか。やはりこれまでにすべて見てきたもの(太字体は Basic 語、イタリック体はプラス α Basic 語、標準体は un-Basic 語)。

- ① **make, mind**, monument ② schedule, **shelf, star** ③ **train, tray, true**
④ **ball, birth**, burden ⑤ mercury, *mercy*, mob ⑥ appetite, **committee, competition**
⑦ **form**, shape, **ship** ⑧ prepare, **ready, separate** ⑨ **clear**, *court*, **curtain**
⑩ **foot**, parade, pedestrian ⑪ **grass, great, growth**

- 3) 上の tweet 文 (2)の内容を 50 字以内 (句読点含む) の日本語で伝えるとすればどうなるか。

- 4) 次は本連載(67)の(2)で扱った text 文例の一部であるが、4語が **Basic の範疇外**の語である。その4語を抜き出し、同時にそれを Basic での言い方に置き換えれば？[上記、語句の置き換えのみで Basic 文となる例で、何度も心の中で反復読みをし母語話者の英語読みでの呼吸法をも感知し会得したい]。

Starting on October 1st, the 250 BILLION DOLLARS of goods and products from China, currently being taxed at 25%, will be taxed at 30%. Additionally, the remaining 300 BILLION DOLLARAS of goods and products from China, that was being taxed from September 1st at 10%, will now be taxed at 15%.

[illegible]

